

## 報告書の構成

**1 全体の構成** この報告書は、報告の本文である知識体系(BOK)中間報告と、一群の関連資料とからなる。

**2 報告の本文** 報告の本文は、J07プロジェクトの2006年度作業の成果である、情報専門教育における知識体系(Body of Knowledge, 知識本体, 知識体)を、IEEE-CS・ACMのcc2001-cc2005を基にして定めたものである。

知識体系は、情報専門教育の5領域、すなわち、**コンピュータ科学(CS, computer science)**、**情報システム(IS, information systems)**、**ソフトウェアエンジニアリング(SE, software engineering)**、**コンピュータエンジニアリング(CE, computer engineering)**、**インフォメーションテクノロジー(IT, information technology)**それぞれに対して用意した。それぞれの知識体系は、原則として、その領域の教育において対象となる知識項目を洗い出して整理分類して示したものである。多くの領域では、大分類として**学習域(learning area, 知識領域, 知識カテゴリ)**をおき、その中に幾つかの**単元(unit, ユニット)**を置く形をとり、さらに、それぞれの単元で扱うべき知識内容を幾つかの**トピック(topic)**の形にまとめて示す。

加えて、それぞれの領域ごとに、原則として、その領域を教育過程の対象に含めているとする学科・専修・コースで必ず学ばせるのが適切である単元を**コア(core)単元**と指定してある。コアの単元は、その学習に対して想定した講義時間を付記しており、その合計が大学での1年分の総講義時間内に(可能な限り十分な余裕を残して)収まるように配慮して選定してある。

なお、知識体系・学習域・単元・トピック・コア等の用語は、領域によって一部異なったものを使っている。J07として途中段階にあり、こうした用語の統一は2007年度の作業となる。

**3 関連資料** この報告書の後半は、本文に示した成果に関係するつぎの資料が集めてある。

(1) **全国大会シンポジウムでの発表スライド** 2006年度の成果報告を行った第69回全国大会でのシンポジウム「情報専門学科カリキュラムJ07-その骨子」での発表スライドが集めてある。このシンポジウムでは、情報処理教育委員会で行った情報専門学科での達成度調査の結果も発表があった。その達成度調査そのものについての公表されている資料も文書の形でここに収めてある。

(2) **cc2001-cc2005の翻訳版** J07プロジェクトの作業を行うのに、IEEE-CS・ACMのcc2001-cc2005の文書の日本語翻訳版を用いた。5領域それぞれの知識体系を定めたものに加えて、5領域にわたる概要報告である。これらは、J07プロジェクトの各委員会が自ら翻訳を行ったものもあれば、他の機関の作成したものを使わせていただいたものもある。これらの文書の翻訳版が集めてある。

J07 プロジェクトがまだ途中段階であるため、たとえば、J07 プロジェクトとしてCS・IS・SE・CE・ITの各領域をどのように位置づけているかを記した文書が公表できる形では用意されていないなど、この中間報告には、その本文を広く理解していただくために必要となる各種の定義や解説が不足している。それを補うことを意図して、翻訳版を資料として集めておいた。これらの資料の利用は、この中間報告の本文を理解するための参考とすることに限る。さらに、この文書の前付けに示してある、cc2001-cc2005の利用に関するIEEE-CSと情報処理学会間での合意にも留意されたい。

**謝辞** この報告書にとりまとめた J07 のこれまでの活動に対してさまざまなご協力をいただいた。情報技術(IT)知識体系(翻訳版)は、国立情報学研究所の本位田真一教授の研究室で翻訳しておられたものをもとにして委員会が仕上げたものである。コンピューティングカリキュラム 2005 概要報告(翻訳版)は、富士通(株)の有志の方々が翻訳しておられたものをもとにして委員会が仕上げたものである。コンピュータ工学の知識体系(翻訳版)は、経済産業省で翻訳しておられたものをもとにして委員会が仕上げたものである。また、後者2件についてその翻訳の存在をご紹介いただくなど、永見祐一さん(経済産業省情報処理振興課)にいろいろに支援いただいた。これらのご協力をいただいた関係の方々に感謝する。